



「クリスマスのよろこび」

チャプレン 滝田浩之

今年もクリスマスの季節となりました。街中がクリスマスの飾りつけをしています。年々、その飾りつけの時期が早くなっているのではと感じているのは私だけでしょうか。11月に入ると一斉に町はクリスマス一色になるように思います。

街の飾りつけに押されるように、私たちの教会も11月29日の礼拝に間に合うように、クリスマスの飾りつけをしました。今では教会のクリスマスの飾りつけの方が街のものよりも地味のようにも思いますが、会堂にはクリスマスツリーを置き、アドベントクランツと呼ばれる、4本のろうそくのついた台を出します。るうてるホームの礼拝堂にも同じものが置かれるはずですが、この礼拝から私たちは四週間、イエスさまの降誕を待つ、「待降節」という季節を過ごすのです。

「待降節」という言葉通り、イエス・キリストの降誕を「待つ」、この「待つ」という言葉がクリスマスのキーワードと断言していいでしょう。もう少し言えば、「信じて待つ」、これがクリスマスに私たちが求められている心の向きと申しますか、姿勢なのです。

私たちは、あまりにも「待つ」ことができなくなってはいないでしょうか。テレビのリモコンが普及してきたとき、放送会社に勤めていた父が、これは社会問題だと言っていたのを思い出します。これからは、いいテレビ番組を作ればいい時代から、リモコンで選んでもらえるように視聴者が望む番組を作らなくては会社がつぶれてしまうというのです。今では当たり前のことですが、視聴者のニーズに応えることがテレビの至上命題になっていったのは「テレビリモコン」の普及にあったのです。今では、スマホも含めて、私たちは見たいものと見ます。見たくないものは、パッと変えられてしまいます。じっくり、この番組が面白いのか、少し待ってみようと思う人はほとんどいません。

待つことのできない私たちは、いつもイライラしてはいないでしょうか。物事の基準は、思い通りになるか否かになってしまい、思い通りにならないと私たちはすぐに「キレテ」しまう面を持ってはいないでしょうか。

その時に聖書は、「信じて待つ」ということを私たちに教えるのです。

るうてるホームは、人間を大切にする施

設だということを先輩たちは築いてきてくださいました。それは、基本的に人間を信頼するという私たちの一番大切にしている理念が形になったものです。

人間を信頼するというのは、具体的に、人を信じて待つということではないでしょ

うか。そして誰もよりもイエスさまが私たちを信じて待っていてくださる。私を信じてくれる方がおられる。その呼びかけが一人一人の上にあることを心からお祈り申し上げます。

「落語で笑う！（50周年記念式典）」

ケアハウス 松原悦子

力強い太鼓に、桂一門による落語が続きます。そうばさんによる小話、自作の立体紙芝居を操る米平さん、そしてお待ちかねの南光さん。同じ四條畷にお住まいと聞いておりましたがお会いすることはなかった人気タレントの出演は、皆の期待を集めていたものでした。百歳を超えた方が年々急激に増え、お祝いに役所から贈られていた金杯が銀杯になり、次には銅杯になるのでは？との話に、会場に居られた春に百歳の誕生日を迎えられた福岡様を、軽妙にアドリブで誘い込む様は、「さすが南光さん！」と賞賛の声もあがりました。笑い転げているうちに、さっき、何を聞いたのかも忘れてしまい、心がすっきりと空っぽになった爽快感を味わいました。

このようなプログラムを用意して下さった係の方、一緒に笑って下さった地域の皆

様、楽しいひと時をありがとうございました。そして、この度はいろいろな都合でお招きできなかったと聞いております、今までホームをお支え下さった沢山の方々に、心より感謝して、これからのまた新しい50年に向かって入居者一同、元気に歩みだしてゆきたいと思います。



「記念式典に参加して」

ケアハウス 岡 愛子

此処、るうてるケアハウスに一年前、広島県から越して来た私は、幸いなことに先日、当施設開園50周年記念祭を祝う機に接することができた。50年という長き歴史と、たった一年という違いに正直、戸惑いもあったが、こんなとき記念式に出席できたのは、自分の中にも大きな意義があった。

式典の後の催しには、どうも私たち入居者を中心に祝い喜ばそうとの企画がうかがえた。プログラムの一つに、「太鼓の演奏」があった。

地元四條畷の主に中学生のグループだと聞いた。元気いっぱい、機敏な動き、大だいこの胸にまでこたえるあの響き、ドーン、ドン、ドーンッ、すご〜い迫力であった。

太鼓とは、今更のごとく、これまた不思議

な楽器であることに気が付いた。複雑な楽譜もなさそうだし？ 大きな一振りで音を奏でる、それでいて余韻をどこまでも耳の奥に、胸の中に残してくれる。

私は太鼓のこんな音を聞きながら、私の胸の内にも、これに似たドンドンドンという、心臓の鼓動を確かに聞いた。

それは私と同時に、此処にいる人みんなに語り掛けられている、と思った。

「大丈夫！心配しなくても良い」と。

これ本当なんです！

「ディアコニア・セミナーが開催されました」

常務理事 石倉智史

11月22～23日に大阪教会とるうてるホームを会場に第23回全国ディアコニアセミナーが開催されました。このグループは、1993年のルーテル教会日本宣教百年記念大会を機に発足し、ルーテル教会の関連の福祉施設や牧師や教会員が深くかかわっているディアコニアの活動を研修や機関誌を通して紹介し、学びながらディアコニアの精神を広めることを目指して結成されたとのこと。

毎年秋口に合宿形式で研修を実施されていて、今回はケアハウスるうてるにご入居

されている岡 愛子さんの講演を目的にるうてるホームにお越しくださいました。

東は千葉県から西は熊本県にいたるまで20名の参加者をお迎えし、ホームの入居者との大変よい交流の機会となり、楽しい時間を過ごすことができました。

ルーテルのネットワークは全国津々浦々で様々な活動がされており、共に仕えあう（ディアコニアはギリシャ語で「仕える」）関係がこうして今も息づいていることに感謝するひとときとなりました。

後援会 ご献金感謝報告

2015年9月11日から2015年11月30日までの献金総合計は2,188,777円ございました。
多額のご献金ありがとうございます。感謝しつつ報告いたします。

編集後記 ●●●●●●●●●●●●●●●●●●

今秋はるうてるホームの50周年記念礼拝・式典を開催し、入居者、ご利用者とその関係者の方々と共に喜びあうことができました。ここ四條畷市岡山の地で50年間、地域の皆様に支えられ、小さな力ながらも私たちのつとめが必要とされ、働きを続けていくことができましたことを本当に感謝します。

教会は待降節に入りました。御子の誕生を待ち望み、心静かにこの時を過ごしたいと願います。皆様が良いクリスマスと新年をお迎えになりますようお願い申し上げます。来る2016年もるうてるホームをよろしくお支えくださいますようお願い申し上げます。(Y)

発行所 575-0002 大阪府四條畷市岡山五丁目19番20号

TEL 072-878-9371 FAX 072-878-5293

メールアドレス jimushitu@ruuteruhome.or.jp

振込口座番号 00910-1-41037 加入者名 社会福祉法人るうてるホーム

発行責任者 後援会長 水野登美子